第3種郵便物認可
北海道建設新聞
2022年（令和4年）2月15日（火曜日）

決定

規模改修軸に

住み方について方向性を定めるための結果を踏まえ、現時点では大規模改修ではなく、2カ年で施工したい考えだ。

ことし耐震基準を満たしているかが不明だった庁舎を調査し、伸縮装置補修、排水管補修（岩内町岩内（10m）①舗装打ち換え、主桁補修、主桁補修、ボルト補修、岩内町当丸（11m）①橋面防水、伸縮装置補修、断面修復（京極町京極（5m）①P補修▽京極町共和（7m）①橋面防水、伸縮装置補修▽京極町京極（29・5×8・5m）①橋面防水、支承補修、現場塗装▽留寿都村留寿都（7・5m）①橋面防水、伸縮装置補修▽蘭越町蘭越（11m）①橋面防水、断面修復▽蘭越町蘭越（3m）①橋面防水、伸縮装置補修▽岩内町岩内（10m）①橋面防護柵▽岩内町実橋（3m）①橋面防水、伸縮装置補修▽岩内町当丸（11m）①橋面防水、断面修復▽岩内町岩内（10m）①舗装打ち換え、伸縮装置補修、断面修復▽京極町共和（7m）①橋面防水、伸縮装置補修▽京極町京極（29・5×8・5m）①P補修▽京極町京極（5m）①橋面防水、支承補修、現場塗装

開発構想段階で公開を

ニセコ町が景観条例改正案

【小樽】ニセコ町は、景観条例の改正案をまとめた。開発計画について、事業者に構想段階での情報公開に努めるよう条項を追加。24日までパブリックコメントを募集し、3月中旬の町議会第1回定例会で審議する。4月からの施行を目指す。

景観づくりについて事業者と関係住民が相互理解を深め、協議を円滑化できるようにするのが目的。現行条例では30条で住民説明会の開催や資料公開を義務付けているが、より早い段階で対話する機会ができるとして新たな条項を追加した。

公開時期は事業者自らが設定できるが、景観上の影響が及ぶ可能性がある地域を対象とした事前景観調査よりも前に公開することを求めている。

ったため21年に耐震診断を創建社で実施した。IS値は判定指標値を満たしていて、躯体に大きな問題は確認されなかった。

このため、町は建て替えではなく大規模改修を想定。町民の利便性を高め、多世代が交流可能な複合施設として再整備する見通しだ。

22年度に方向性や事業費、施工方法などを固め、23年度にも実施設計を進める。施設を運営しながらの施工を見込んでいて、25年度の完成を目指す。

ニュースのお知らせは
最寄りの支社局
苦小牧支社
☎0144(33)0161
FAX(31)2209
函館支社
☎0138(52)3870
FAX(33)2185
小樽支社
☎0134(33)0866
FAX(21)2031
室蘭支局
☎0143(24)5188
FAX(25)2235

苫小牧市 ゼロ市債4.2億円

北光12条線舗装改修など

【苫小牧】苫小牧市は、2022年度予算の前倒しとなるゼロ市債発注に、一般会計と水道事業会計合わせて4億2700万円を予定している。17日開会の市議会定例会に提出する21年度補正予算案に限度額設定を盛り込んだ。

内訳は、一般会計が3億1600万円、水道事業会計が1億1100万円。

一般会計は全て道路関係で、単独道路舗装で明徳11号線ほか2線改良舗装など工事6件に2億円、単独道路新設改良で北光12条線舗装道路改修など工事4件に1億1600万円を積み上げた。水道事業会計では配水管の新設と改良を予定している。

対象工事は次の通り。

◆一般会計

◇単独道路舗装2億円▽明徳11号線ほか2線改良舗装▽のぞみ北通改良舗装▽美原1条線改良舗装▽宮の森4条線ほか2線改良舗装▽永福6条線改良舗装▽柳町10条線改良舗装

◇単独道路新設改良1億1600万円▽北光12条線舗装道路改修▽桜木7号線舗装道路改修▽双葉町4丁目線舗装道路改修▽山手東1条線ほか1線舗装道路改修

◆水道事業会計

◇配水管新設1690万円▽ウトナイ北＝200㎜

◇配水管改良9410万円▽錦岡地区＝100㎜▽小糸井町＝100㎜▽元中野町＝50㎜▽植苗地区＝150㎜

◇収益的支出▽受託（220万円）

◇資本的支出▽送配水施設整備（19億4500万円）登別温泉浄水場移転新築継続▽設備（4985万2000円）

◆下水道事業会計 1億6562万8000円

◇収益的支出▽管渠（1127万円）

◇資本的支出▽管渠建設（1億190万8000円）▽処理場建設（3500万円）▽個別排水処理施設整備（1745万円）

◆簡易水道事業会計 50万6000円

◇資本的支出▽水道メーター（50万6000円）

工事

登別温泉浄水場上屋建設の事の発注を

事請負費は（カッコ内は円）22億91円▽財産管理（円）▽コミセンター（70円）▽公共施設営繕（100万円）◇民生費▽交通安全施設（25万2000円）

◇衛生費▽塵芥処理（2億8020万3000円）クリンクルセンター中間改修

◇労働費▽労働福祉センター（6600万円）

◇商工費▽観光施設（5億5272万6000円）情報発信拠点施設建設継続

◇土木費▽道路維持（1億6285万円）▽道路新設改良（2億4477万3000円）▽橋梁維持（2700万円）▽公園管理（4350万円）▽住宅管理（860万円）▽住宅建設（5億502万5000円）公住千代の台団地建て替え2―4号棟新築ほか

◇消防費▽消防施設（1億6900万円）消防庁舎移転新築

◇教育費▽教育財産管理（1709万2000円）▽小学校施設管理（1903万円）▽中学校施設管理（3825万8000円）

◆学校給食事業特別会計 709万5000円

◇給食センター▽給食センター整備（709万5000円）

◆水道事業会計 19億9705万2000円

日高道静内―三石間を早期に

日高総合開発期成会など中央要望

中山副大臣（右から2人目）らに要望書を手渡した＝日高総合開発期成会提供

【苫小牧】日高総合開発期成会（会長・鳴海修司新冠町長）と高規格幹線道路日高自動車道早期建設促進期成会（会長・池田拓浦河町長）はこのほど、日高自動車道静内―三石間の早期事業化などを中央要望した。

日高自動車道は道央自動車道苫小牧東1Cから分岐する高規格道路で、浦河町までの120㌔を計画期間とする。物流、人流の効率化や災害時避難、救難道路として早期の全面開通が期待されている。

約半分の日高厚賀ICまでが開通済みで、厚賀静内道路16・2㌔の整備を室蘭開建が進めている。

2021年11月には北海道開発局が静内―三石間のルートについて、約21㌔の別線・市街地アクセスルートで整備する方針を決めた。

両期成会の会長が1月26日に上京し、国土交通省、財務省、道内選出の国会議員に対し要望書を提出した。

要望書には静内―三石間のルート決定を踏まえ、同区間の早期新規事業化を明記。合わせて、厚賀静内道路の整備促進を盛り込んだ。

要望書を受け取った中山展宏国交副大臣は「静内―三石間の整備については着実に取り組む」と答えた。

浦河の保育所にひな人形段飾り

ケイセイマサキ建設と中島組

【苫小牧】ケイセイマサキ建設（本社・新冠）などはこのほど、社会貢献活動の一環として3月の桃の節句前に、浦河町内の荻伏保育所に7段飾りのひな人形を提供し、園児を喜ばせている＝写真。

新型コロナウイルスがまん延する中で子どもたちに楽しく過ごしてもらおうと、同社浦河支店と中島組（本社・浦河）が共同で取り組んだ。

4日に中島渡支店長と原田修工事長が保育所を訪れ、ケイセイマサキ建設が所有するひな人形一式を貸与。園児17人が苦労しながら飾り付けに挑戦した。

見守っていた原田工事長は「子どもたちの笑顔が見られて安心した。継続したい」と話した。

ソフト面施策に重点

工藤函館市長 22年度予算案発表

新年度事業の狙いを説明する工藤市長

【函館】函館市の工藤寿樹市長は10日の2022年度予算案発表で、新型コロナウイルス対策を優先するとともに、市民生活を支えるソフト面の施策に重点配分したことを説明。西部地区やJR函館駅前の活性化に力点を置く姿勢も示した。

22年度予算案の総額は前年度当初比3・1%増の2795億8622万9000円。一般会計には2・3%増の1374億3000万円を盛った。

予算編成の基本方針として「新型コロナウイルス対策を最優先に、福祉拠点の活用や子育て世帯支援の拡充を目指した」と述べた。

合併特例債の期間終了などを踏まえ「ハード面よりもソフト施策を重視した。ウィズコロナや経済回復の施策も考えなければ」とした。

建設関連は、西部地区再整備の一環で旧西小を解体する。跡地の一部で道営住宅の新築が計画されていることを説明。これ以外の土地利用については「全く白紙。西部地区にとってよい使い方が望ましい」と活用策を検討する考えを示した。

大門エリアや市役所付近では、立地適正化推進の観点から広場整備や歩道高質化に取り掛かる。

「函館の玄関で観光客が集う場所。活性化が非常に大事だ」と話し、棒二森屋店跡地の市街地再開発との相乗効果に期待を寄せた。

地域のニュース
お近くの支社局までご連絡下さい

建設業の役割や魅力伝える

どうなん建設おしらせ隊 函館中部高にオンライン講演

オンライン講演するおしらせ隊メンバーの函館建青会

【函館】どうなん建設おしらせ隊はこのほど、函館中部高の生徒を対象に建設業の魅力を伝えるオンライン講演会を開いた。1年生32人が受講し、インフラ整備や建設業界の話を興味深く聞いた。

函館開建、函館建管、函館測量設計業協会、函館建青会の4団体で組織。管内の工事現場などへ小中学生などを招き、建設業の役割や仕事の面白さを紹介している。

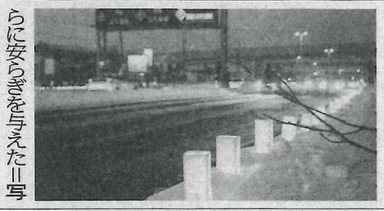
函館中部高を訪れての講演会を企画したが、新型コロナウイルス感染症の急速な拡大を受けてオンラインに切り替え、1月28日に開催した。

開建、建管は北海道総合開発計画やインフラ整備の効果を解説。函館測量設計業協会はコンクリートを活用してきた歴史について、函館漁港石積み防波堤など身近な例を挙げて説明した。函館建青会はインフラ整備や防災対応といった建設業の仕事内容、労働環境などを伝えた。

どうなん建設おしらせ隊では「1人でも多くの生徒が建設業界を将来の仕事の選択肢の一つとして考えるきっかけになれば」と期待している。

手作りキャンドル 安らぎの明かり

函館でシーニックdeナイト始まる



らに安らぎを与えた＝写真。

【函館】シーニックバイウェイ北海道などが主催する「シーニックdeナイト2022」が始まった。初日5日は、5号函館新道沿いで手作りのワックスキャンドル約500本に明かりをともし、通行人やドライバーらに安らぎを与えた＝写真。

函館開建職員、同道路沿線にある石川町や桔梗町の町会員、地元の野球少年団員など計80人ほどが参加。キャンドルの運搬設置には相互建設が協力した。

シーニックdeナイト実行委員会の折谷久美子代表は「キャンドルの明かりで少しでも温かい気持ちになってもらえれば」と話している。

今後は19日に亀田八幡宮、最終日26日は函館七飯スノーパークで開く。